



Osaka Gakuin University Repository

Title	サステイナブルツーリズムの研究 Ⅰ. ジンリョウユリ保護地の意識調査 Study of Sustainable Tourism 1. Tourists Survey at JINRYO YURI (<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i> (Honda) Kitamura) Conservation Area
Author(s)	西原 里実 (Satomi Nishihara)
Citation	大阪学院大学 商・経営学論集 (OSAKA GAKUIN UNIVERSITY REVIEW OF COMMERCE AND BUSINESS ADMINISTRATION), 第 41 巻第 2 号 : 95-117
Issue Date	2016.03.31
Resource Type	ARTICLE/ 論説
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

サステイナブルツーリズムの研究 I. ジンリョウユリ保護地の意識調査

西原 里実

Study of Sustainable Tourism 1. Tourists Survey at JINRYO YURI (*Lilium japonicum* var. *abeanum* (Honda) Kitamura) Conservation Area

Satomi Nishihara

ABSTRACT

Sustainable tourism is a unique insight into the disappearing life on this planet. I looked into relationships between one endangered species, a flower named Jinryo Yuri (*Lilium japonicum* var. *abeanum* (Honda) Kitamura) and its impact in consider building sustainable tourism involving preservation of the lily. During the blooming period of Jinryo Yuri, 105 visitors in a preservation area participated in an awareness survey. In this survey, it become clear that Jinro Yuri is a respected natural tourists attraction which can help build a sustainable tourism in Naga, Tokushima in Japan.

1. はじめに

近年、自然観光資源として注目されている花々は都会のホテルや百貨店および飲食店内の店頭にもインテリアやデザインとして観賞に用いられている。特にホスピタリティ業界においては昔から欠かすことができない物のひとつである。欧米式の婚礼が多い我が国においてもブライダルビジネスに花は欠かす事ができない装置であり、特にユリやランは高利益を見込める高価な会場の装飾商品である。多忙な日々を過ごす人々は、店頭で切り花として購入した花々を家庭で楽しみ、また趣味の園芸として楽しむことも多い。それだけでは足りず人々は、自然に咲く花を求めて都心を離れ自生地を訪れる。そこで野生種の花々を観光資源とみなして観光を目的とした Flower Hospitality and Nature Tourism の意義が生じ事業が成立する (Tensie, 1991)。

今回、観光化を目的とした自然観光資源として徳島県に自生するジンリョウユリ (*Lilium japonicum* var. *abeanum* (Honda) Kitamura) を取り上げた。

ジンリョウユリは、植物学上ササユリ (*Lilium japonicum* Thunb.) の一変種に属し、絶滅危惧種である (環境省、2015)。また、蛇紋岩という超塩基性岩地域にのみ生育するユリであり世界に徳島にのみ自生するきわめて珍しく、美しいユリである (林・西原、2014) (写真1、写真2)。

ジンリョウユリが自然観光資源として成り立つにはジンリョウユリがどのように人々に影響を及ぼしているのかを調査する必要がある。人々がジンリョウユリに何らかの価値を見いだしている証拠をみつけて自然からうまれるホスピタリティおよびツーリズムの可能性を追求する。そこで、私は徳島県那賀郡那賀町東尾のジンリョウユリ自生地内にある保護地を訪れ、保護地を訪れる人々にアンケート調査を行った。そして、サステイナブルツーリズムを考慮した花観光ツアーの可能性および現地の観光資源保全に繋がる要素を調べる事にした。



写真1 保護地のジンリョウユリ.



写真2 保護地の様子.

2. 方 法

調査は、徳島県のジンリョウユリ自生地内の保護地区で行った。ジンリョウユリの開花期は毎年5月下旬から6月上旬である。そこで今年は開花の最も盛んな2015年5月20日から5月27日の一週間アンケート調査を実施した。その結果開花期に現地を訪れる来訪者105名から回答を得た（写真3）。具体的には、保護地を訪れる来訪者に保護地の管理者が意識調査アンケート表を渡し質問事項に記入してもらい管理者が回収した。質問項目は来訪者の性別、年齢、職業、交通手段、移動時間、居住場所の6項目について問い、そして以下のQ1～7の7つの説明についてアンケートを行った。質問の内容は、Q1.あなたは花を目的に旅行した事がありますか？ Q2.あなたはジンリョウユリがこの土地にしか生育していないことを知っていますか？ Q3.何回目の来訪で



写真3 アンケートにご協力下さった方々（後方）と保護地の管理者の吉田修氏（左前方）。

すか？ Q4. この場所（保護地）は何処で知りましたか？ Q5. あなたは花が心理的効果や健康増進効果に役立つと思いますか？ Q6. ジンリョウユリを目の前にしてどのように感じますか？ Q7. どれくらいお金を払って鑑賞する価値があると思いますか？であった。属性と選択式の項目が10問、記述式の項目が3問あり計13問を用いた（附表1）。

3. 結 果

3-1. 男女比率

男女自生地への来訪は男性39人、女性66人の合計105人で比率は男性37%、女性63%で女性が男性の2倍弱であった（図1）。

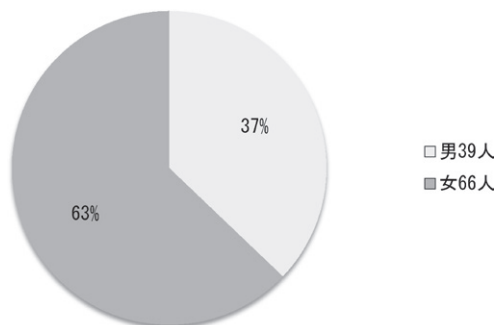


図1 ジンリョウユリの保護地を来訪した男女比率（来訪者総数105名）。

3-2. 来訪者の居住地域

来訪者の居住地域は、徳島市内39人（37%）、市外64人（61%）そのうち市内の男性は12人（11%）、女性は27人（26%）に対して市外からは男性20人（19%）、女性は44名（42%）であった。市外来訪者は市内来訪者に比べて25人多くおよそ1.6倍である。未回答は2人であった。徳島市と市外の男女比はと

もに1.2倍である。全体の男女比は1対2.2と女性の来訪者が男性の2倍を越えている。市内の男女の来訪者の差は15人であり市内からの女性は市内からの男性よりも1.2倍高い。同じく、市外の男女の来訪者を比較しても女性が男性比の1.2倍(24人)多い。市内男性来訪者と市外男性来訪者の差は8人と市外男性来訪者が多い。市内女性来訪者と市外女性来訪者の差は17人で市外女性来訪者が多い。(図2)。

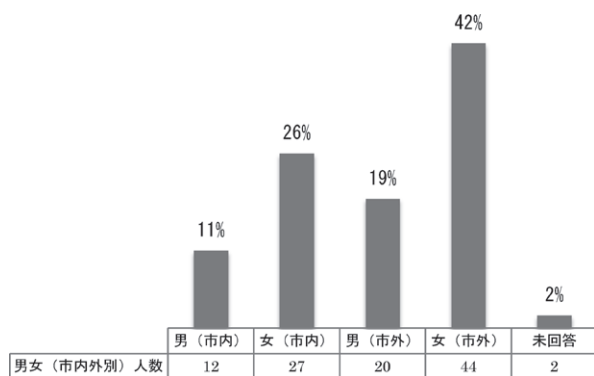


図2 保護地への来訪者の男女比率と人数(市内外別)。

3-3. 来訪者の年齢層

男女とももっとも多い来訪者層の年齢は60歳代が全来訪者105人中の59人(56.2%)。2番目に多い世代は70歳代の30人(28.6%)続いて50歳代が6人(5.7%)、40歳代が5人(4.7%)そして、30歳代が5人(4.7%)であった(図3)。

3-4. 職業

どのような仕事を持つ人々が来訪したのかを調査した。結果は主婦40人(38%)、会社員9人(8.6%)、公務員3人(2.9%)、学生0人(0%)、技術者1人(1%)、研究者4人(3.8%)、農業関係者13人(12.4%)、退職者27人(25.7%)、その他8人(7.6%)である(図4)。

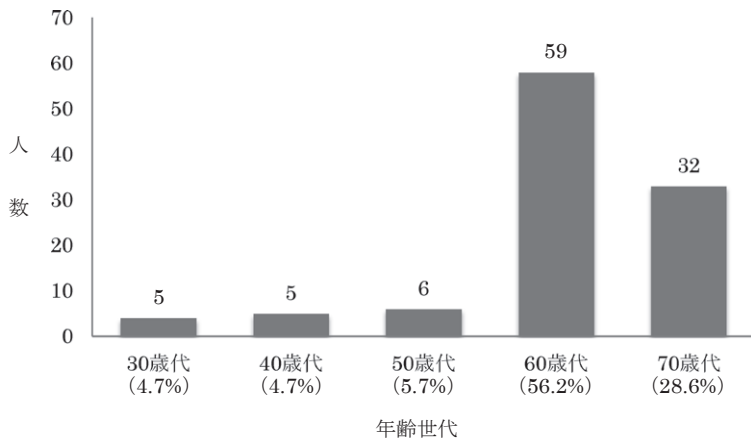


図3 来訪者の年齢層.

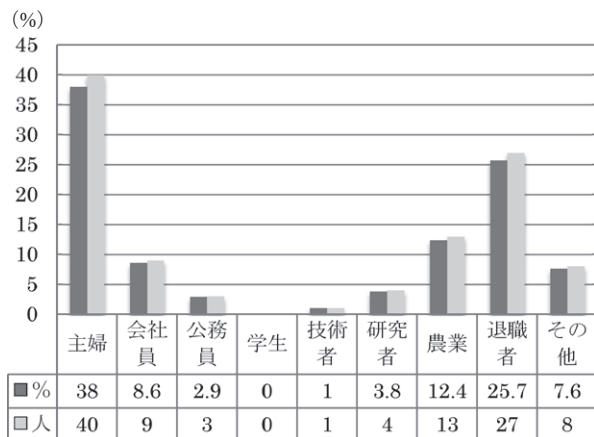


図4 職業区分とその比率.

3-5. 移動時間

自宅および出発地から自生地までの移動時間について調査した。来訪者の保護地までの所要時間は、図5-1示すとおりである。1時間以内は全体の17人(16%)、1時間～2時間以内は全体の41人(39%)、2時間以内～3時間以内は27人(26%)、4時間以上は13人(12%)、無回答が7人(7%)。交通手段においては98人(93%)の来訪者が自家用車を使用しており5人(5%)の来訪者はツアー車で訪問していた。無回答は2人(2%) (図5-2)。

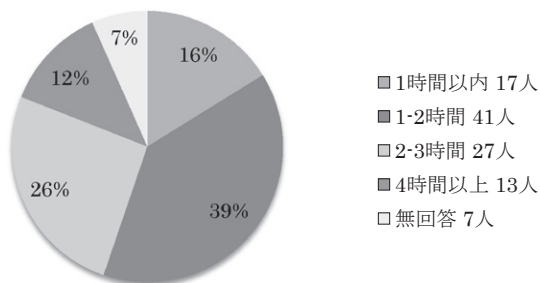


図5-1 来訪者の保護地までの移動時間.

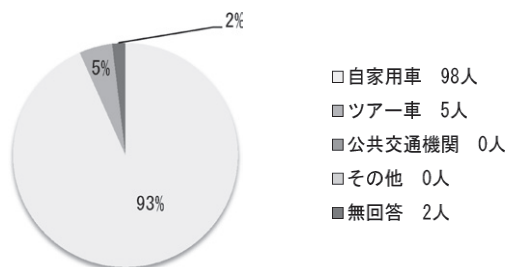


図5-2 来訪者の保護地までの移動手段.

3-6. 質問1 あなたは花を目的に旅行した事がありますか？

「ある」と答えた来訪者は全体の86人（82%）、「ない」と答えた来訪者が9人（8%）、「今後花を目的に旅行してみたいと思った」来訪者は7人（7%）、「今後する予定がないが旅先に花があれば良いと思う」と答えたのは2人（2%）、そのような予定がないという来訪者は0人（0%）であった（図6）。

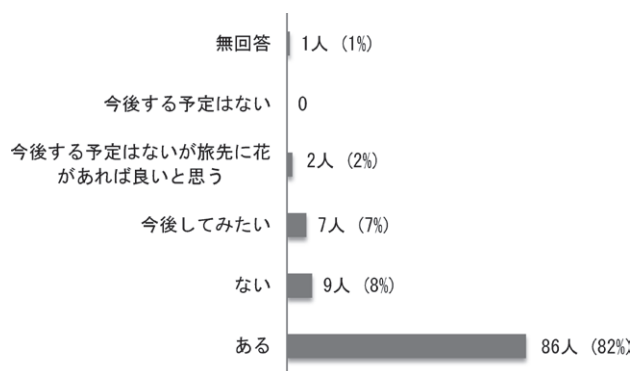


図6 あなたは花を目的に旅行したことがありますか？（質問1の回答）。

3-7. 質問2 あなたはジンリョウユリがこの土地にしか生育していないことを知っていますか？

この質問の調査結果は来訪者数105人中、約半数の50人（47.6%）が「知っていた」と答えている。「最近知った」は21人（20%）、「今日知った」は20人（19%）、「知らなかった」は14人（13.3%）であった（図7）。

3-8. 質問3 何回目の来訪ですか？

この質問では初めて保護地を訪れる来訪者は68人（64.8%）を占めていた。2回目の来訪者は18人（17.1%）、3回目～5回目の来訪者数は12人（11.4%）、5回目から10回目の来訪者数は6人（5.7%）、11回以上は1人であり、半数以上が初めての来訪であった事がわかった（図8）。

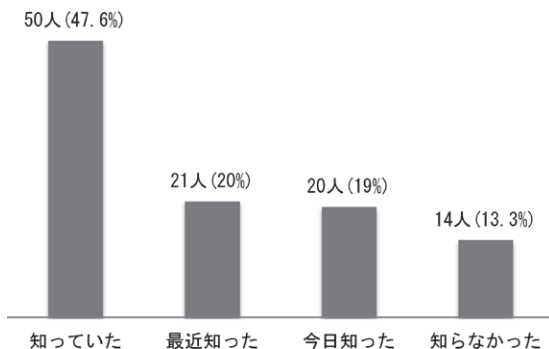
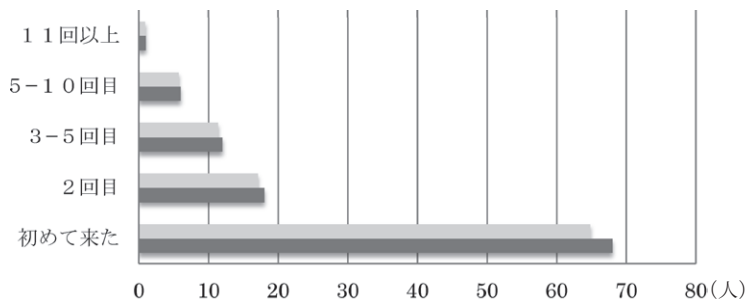


図7 あなたはジンリョウユリがこの土地にしか生育していないことを知っていますか？（質問2の回答）来訪者数と比率。



	初めて来た	2回目	3-5回目	5-10回目	11回以上
□%	64.8	17.1	11.4	5.7	0.9
■人	68	18	12	6	1

図8 保護地への来訪回数（質問3の回答）。

3-9. 質問4 この場所（保護地）は何処で知りましたか？

新聞で知った来訪者は60人（57.1%）、知り合いから聞いた来訪者は25人（23.4%）、掲示板は0人（0%）、インターネットで知ったのは6人（5.7%）、観光会社を通じて知った来訪者は3人（2.9%）、通りすがりでは1人（1.4%）、その他では10人（9.5%）であった（図9）。

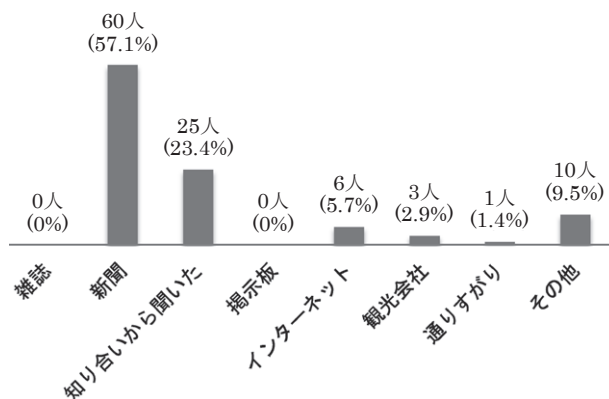


図9 この場所（保護地）は何処で知りましたか？（質問4の回答）。

3-10. 質問5 あなたは花が心理的効果や健康増進効果に役立つと思いますか？

「花が心理的効果や健康増進効果に役に立つ」と答えたのは105人中無回答の2人を除く103人全員が「はい」と答えた。「いいえ」は0人であった。「あなたは花が心理的効果や健康増進効果に役に立つと思いますか」の質問について「はい」と答えた人の内訳は男性39人、女性64人で、男性39人中70%の27人が市外から来訪しており30%の13人が市内から来訪している。「はい」と答えた女性の比率は女性64人中61%の40人が市外から来訪しており36%の24人が市内から来訪していた。（図10）。

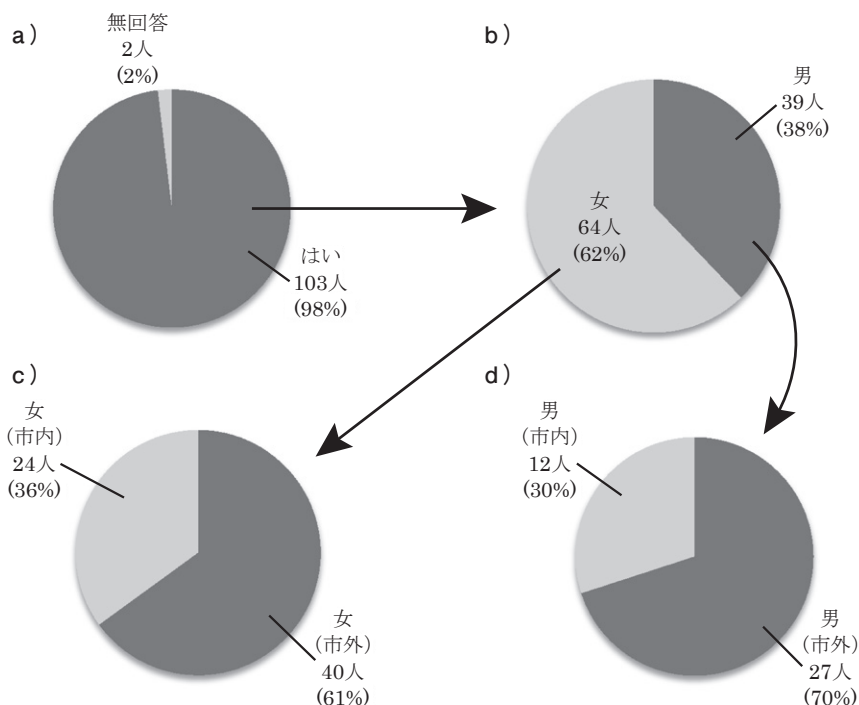


図10 あなたは花が心理的効果や健康増進効果に役立つと思いますか？（質問5）の回答中役に立つと答えた比率、a). 総来訪者数と比率、b). 男女の比率、c). 女性の市内と市外の人の数と比率、d). 男性の市内と市外の人の数と比率。

3-11. 質問6 ジンリョウユリを目の前にしてどのように感じますか？

105人中の77人（73%）がプラスの気持ちを抱いたと答えた（無回答26人、解読不明2人）（図11-1）その77人（73%）には具体的にどのように感じたかを言葉にしてもらった。77人中の60人が安らぐ事を主張（78%）、20人が感動したと答え（26%）、ジンリョウユリの色、香り、可憐で美しい姿を見て癒される答えたのは60人（78%）、また美しさあまり感動して元気になると答えたのは45人（58%）であった（図11-1、図11-2）。

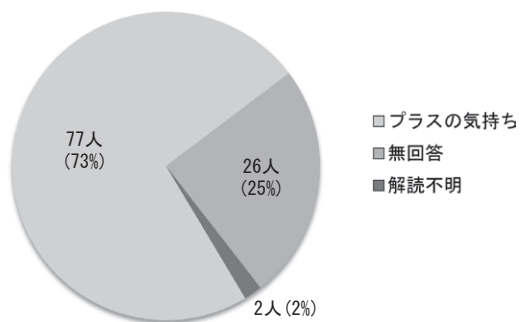


図11-1 ジンリョウユリを目の前にしてどのように感じますか？
（質問6の回答）プラスとマイナスの気持ちの比較.

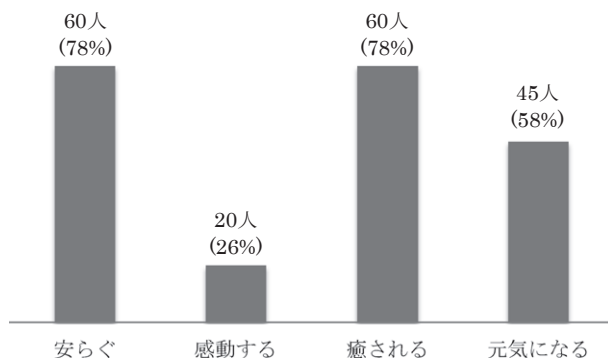


図11-2 ジンリョウユリを目の前にしてどのように感じますか？（質問6の回答）プラスの気持ちがあると答えた来訪者（77人）の具体的な感じ方（答えは複数）.

3-12. 質問7 どれくらいお金を払って鑑賞する価値があると思いますか？

鑑賞価値の調査結果は、一番多い区分が「500円から1,000円まで」の40人、1,000円以上も14人いた。「評価できない」は29人、「500円まで」は22人であった（図12）。

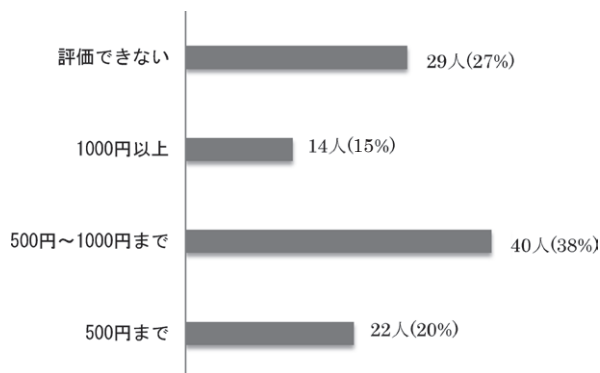


図12 どれくらいお金を払って鑑賞する価値があると思いますか？（質問7の回答）.

4. 考 察

調査の結果から女性の来訪者63%に対して男性37%と女性の占める割合が多い事がわかる（図1）。女性の来訪者が多いことは、花に対する性別の指向性を示していると考えられる。すなわち女性は、小さい時からおままごとで料理やお花の遊びをすることが良くある。このようなことは、文化的な刷り込みとも考えられなくもないが、花を好む指向性が出来上がるのに影響していると考えられる。

また市内来訪者が37%に対して市外来訪者が61%と市内来訪者よりも市外来訪者が24%も多いことがわかった（図2）。各職業における年齢構成を詳細に分析しなければならないが、ひとつは保護地と自宅との距離の問題が考えられ

る。保護地と自宅との距離について、図5-1において2時間以内の来訪者が58人と約6割を占めている。徳島市内から保護地までは、2時間以上の時間を要する。自生地は、JR徳島駅から自家用車で約2時間もかかる。公共交通機関ではJR徳島駅から徳島バスの川口行きに乗り終点で乗り換え、出原行きもしくは平谷行きに乗りつき長安口バス停駅で下車、そこから徒歩でも2時間以上の山道を歩く必要がある。したがって移動手段が車以外には困難である。調査によると来訪者は誘い合わせて自家用車に同乗して来訪するケースが多いことがわかった。しかしながら四国の徳島県下は、山岳地域が多く、しかも山深い場所が多い。道路も狭く、道数も少ない。険しい渓谷沿いの道路は土砂崩れや舗装工事等で通行止めになる場所も多々ある。まさに秘境といえる。保護地と同じ郡内の来訪者であっても自宅から保護地に来るにはかなりの時間を要する。また地図上では保護地までの距離が近くとも交通の便が悪くかつ便数が少なく整っていないため思うより時間を要する。保護地に来るためには車でも道幅が狭く高い運転技術と時間を要する。保護地は笹峠（標高約800m）に向かう標高約750mの山麓にある。来訪するには平均して車で1時間半から2時間程度をかけて来訪している（図5-1）。また保護地は、その近辺に観光地がない山中である。この事から分かる事は、来訪者は来訪する事を“旅行”の一環としてあらかじめ入念に計画しているということだ。遠方の来訪者が全来訪者の半分を占めている事やこれらの背景を考慮すると保護地が来訪者にとって非常に魅力的な場所であるという事が伺える。来訪する事に大変意義を持っている可能性があるようだ。保護地を訪問した来訪者105名の平均年齢は60歳代であり退職者もしくは専業主婦であったので時間には余裕があると考えられる。

「ジンリョウユリを目の前にしてどのように感じますか」（質問6）という回答にも、「安らぐ、感動、元気になる」という回答とともに「ジンリョウユリの色、香り、可憐で美しい姿を見て癒された」という言葉を使用して回答して

いる人が多かったのでそのことが反映されている（図11）。この意識調査の回答からわかるように来訪者はこのジンリョウユリに何かしらの期待と興味を持っている（写真3）。それは一体何か。アンケート項目の「あなたはジンリョウユリがこの土地にしかない事を知っていますか」（質問2）（図7）、「何回目の来訪ですか」（質問3）（図8）から、ジンリョウユリは大多数の来訪者に興味を抱かせる花である事がわかる。ジンリョウユリと人間の間で何かしらの関係が出来上がっている事実の証拠を探す一歩のために「あなたは花を目的に旅行した事がありますか？」（質問1）と尋ねた（図6）。回答105人中86人（82%）もの人々があると答えている。ジンリョウユリだけではなく来訪者は他にも花を見る事を中心に旅行している事実や初めてジンリョウユリを見て興味を抱き「今後してみたい」または「今後する予定はないが旅先に花があればよいと思う」と答えた人は合計9人（9%）いる。従って両方を合わせると91%の人が花を目的とする旅行をすることになる。

「何回目の来訪ですか？」の質問3については保護地を初めて訪れる来訪者が全体の68人（64.8%）を占めていた。また全体の18人（17.1%）はこの保護地を2回訪ずれている（図8）。前回来訪した際に何かしら興味を抱いたので来訪していると言えるであろう。

質問4の「この保護地をどこで知りましたか？」では新聞で知ったという回答が60人（57.1%）ともっとも多い。このことは、ジンリョウユリの開花前に徳島新聞によってジンリョウユリの開花が紹介されておりこの記事の影響が大きいようだ（徳島新聞、2015年）。過半数を超えた60人が読んでいた新聞の影響が何よりも多いことから、徳島新聞で取り上げられた回数を調べた所2013年から現在（2015年）までにおいて毎年5月下旬の記事に取り上げられていた。また「徳島大学の地区再成塾」と「那賀町教育委員会」が主催した平成22年度に那賀町相生ふるさと交流館で行われたジンリョウユリ座談会の影響が大きいと考えられる（徳島大学地域創世センター、2015）。その他、現自生地の隣の

町のジンリョウユリの産地であった神領村（現在は神山町）の高校、城西高校神山分校の生徒が保全活動に取り込んでおり1991年から植物バイオ科学の授業で球根を育て、自生地に埋め戻す保全活動に取り組んでいる。そして、1993年から山林へ埋め戻し増殖活動を続けている（徳島新聞、2014年）。これらの事が、地元の新聞である徳島新聞に記事として掲載されている。インターネットでの情報が盛んになり影響をうけた来訪者は6人（5.7%）いた（図9）。今後は投稿サイトやブログ、ソーシャルメディアでの影響が上昇する可能性も高いと考える。また、ネット使用者は新聞購読者読者よりも若く年齢が様々であると推定できる。そして国を問わずに閲覧できるため英語で発信されれば来訪者も国外から来る事になるであろう。平均年齢についても低くなる可能性やさまざまな事柄が良き方向へと変わってくると期待できる。

質問5の「あなたは花が心理的効果や健康増進効果に役に立つと思いますか？」の質問に対して市内・市外の男女別で調査した結果を見ると105人中103人が「はい」と答えた（図10a）。これは、ほぼ全員がジンリョウユリを目の前にしてながしかのプラスの感情を抱いたということである。質問6では質問4のプラスの思考を示している。105人中、無回答26人、解読不明2人を省いた77人全員が何がしかのプラスの気持ちを抱いている反面、誰一人としてジンリョウユリをみてマイナスな気持ちになったものがない。これは自然観光資源の観点からとらえると非常に安定した観光資源である（図11-1、図11-2）。

質問7の「どれくらいお金を払って鑑賞する価値があると思いますか？」の回答でジンリョウユリの観覧価値は40人（38%）の来訪者が1,000円までの価値と答えている（図12）。しかし「美しさのあまりにその気持ちをお金に評価できない」29人（27%）という声も多くみえた（図12）。

現段階の調査において客観的ではあるが観光資源としてはプラスの評価ができるので、サステイナブルツーリズムに重点しぼった観光化が見込まれるで

あろう。そしてジンリョウユリに付属する他の観光資源およびマーケティングの形態によって評価値が上がると推測できる。

今後、この保護地の保全を中心としたサステイナブルツーリズムとして観光化するには、対象となるジンリョウユリの保全の大切さを十分理解し運営する人材や保全と観光を考慮したシステムが必要である。そのためには、下記のようなことが必要であると思われる。

- a). 交通の便の確保・維持・改善
- b). 人材確保と育成（サステイナブルツーリズムを理解したジンリョウユリ保全地域の管理者とサステイナブルツーリズムを地域社会に推進するための運営スタッフの確保。とくに地元出身の住民でこの観光に関与する人々の育成。）
- c). 宿泊施設（ジンリョウユリをプロモートする宿泊施設。温泉、食事所、休憩室、会議室やシャトルバス等があることが好ましい。）
- d). マーケティング（観光目的とした広報及び営業活動を行いビジネスを構築する。）
- e). 地域住民の観光マネジメントについての理解

「人間と自然は人類がはじまるころから深く結びついているようであり、植物と私達の絆や身体的そして精神的なやすらぎの大切に気づくべきである。」（ルイス、1996）、「私達人間は常に花になんらかしらの意味を求めているのではないか。花が望んでそうしているとしか思えない。」（ポーラン、2001）、人間の自然に対する感情や植物と人間の“絆”がいわゆる自然観光資源の源である。今回の調査を行い一番注目すべきであった事は来訪者の大多数の言葉である“癒される”である。ジンリョウユリが来訪者をどのように癒しているか今後調査をする必要がある。そしてその答えが真の自然から授かる自然ホスピタリティに関連してくるのでないかと察する。ジンリョウユリが人を癒している物質やそのメカニズム自体は、現段階では不明である。しかし、ジンリョ

ユリの保護地ではすでにヴェールに隠されてきた自然ホスピタリティが成り立っていると推定できる。

ジンリョウユリは環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種1B類（EN）にランクされている日本の徳島にしかないユリである（環境省、2015）（写真1）。また、徳島県の貴重種として「徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例」に指定されており採取はできない（徳島県、2006）（写真4）。ジンリョウユリが希少だからこそ、人間の欲望として現地に足を運ばせる。そして希少なものを自分の目で見て感じ癒され心を安らげたい。真実が何であれここにはすでに需要と供給がある。このような場合においてこそ「ラムサール条約」の理念のひとつであるワイズユース（wise use）としてサステイナブルツーリズムが成立する。またジンリョウユリを保全するにも心を満たすにも生物多様性の「持続可能な利用」（サステイナブルユース）としてツーリズムは

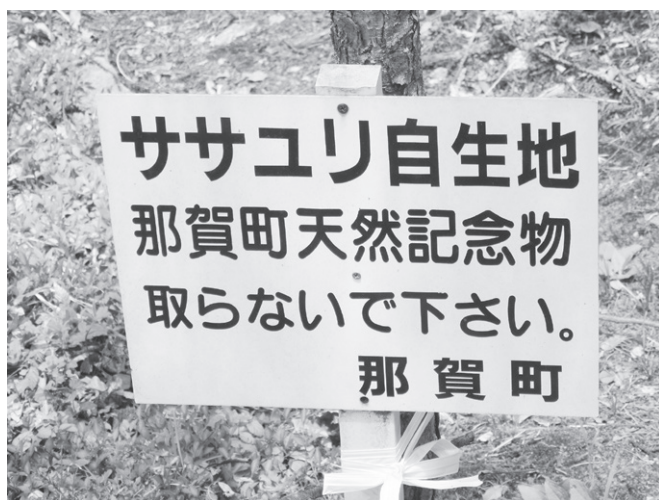


写真4 徳島那賀町東尾のジンリョウユリは、かつてササユリと呼ばれていた。

必要であり構築できれば資金があつまり保全資金にも回す事が可能である。その意味で観光資源に十分成り立つ要素を持っていると言える。一番重要な事は、自然観光資源を失えば取り返すことができないということである。

近年では花を見る観光が以前にまして人気をよび森林セラピーや癒しの森など季節ごとに咲く花や自然を主にした観光や治療の一貫としたツアーに注目が浴びている。例えば2007年10月にさかのぼった過去のJTBヘルスツーリズム研究所(2007)がまとめたデータにおいて「ヘルスツーリズムの現状と展望調査」の結果では「ヘルスツーリズム」の潜在市場規模は4兆円である。そして、交通費を含むと6兆円になる。消費者の「旅行」に健康を取り入れたいという意向は8割もあることなどが明らかになっている。「健康」をテーマとした旅行に行きたい人は「宿泊旅行」、「日帰り旅行」とともに約6割だった。旅行先で試したい健康活動は、「温泉」(79%)、「森林セラピー・自然体験」(54%)、「整体・マッサージ」(38%)、「タラソセラピー・エステ・スパ」(34%)の順だった。これ以外にも、さまざまな自然に関する観光形態や活動がある。

国内においては日本の文化に欠かせない生け花にはじまり、園芸そして都心では栽培した花々を見る花の博覧会、郊外の植物園鑑賞、自然に咲く花々の鑑賞ツアー等も盛んである。しかしながら、欧米に比べると日本は多種多様な植物が自生するにもかかわらず未だに自然観光資源を重視したホスピタリティや観光はビジネス化されておらず利益を求めるだけの園芸、植物園での鑑賞が大多数である。ましてや自然保護やサステイナブルツーリズムとの関連性の認知度が大変低いのではないだろうか。国土緑化推進機構が唱えるグリーンツーリズムの目的は「森林資源の造成、国土の保全及び水資源のかん養並びに生活環境の緑化をはかり、もって心豊かな国民生活の実現、日本の文化的発展、さらには地球環境の保全に寄与すること及び国際貢献である」(国土緑化推進機構、2015)。欧米では自然観光資源を重視したホスピタリティとツーリズムの関連は非常に根強く地域に密着している。日本では「花見」という伝統的な文

化もあるが日本の花見は欧米の単なるフラワーツーリズム等とは異なる要素があると思える。

今回の意識調査で得た事は、人々は自然界のホスピタリティを大いに堪能していることが証明できた事だ。まさしく花を愛でる旅をおこなっている。ただジンリョウユリ自体が観光資源というよりもジンリョウユリに“癒してもらおう事”がこの保護地では観光資源になっていることに気がついた。このことは背景に私が10年以上に渡るホスピタリティ教育の発祥地スイスに在住し、そこで学んだ真のホスピタリティ・ツーリズム経営学から（西原、2014）今回の意識調査を通じてジンリョウユリと人との交わり方を目の前にして自ら実体験した事である。これからはジンリョウユリがどのように来訪者をホストしてくれるのかを調べてゆく事でさらにホスピタリティの実態を追求するつもりである。

5. 謝 辞

今回の調査にあたり東尾のジンリョウユリ保護地の管理をしておられる「東尾のユリを守る会」会長の吉田修氏にご協力を頂いた。また、日頃に激励を頂いている郡司健教授、さらに適切なるアドバイスを頂いている林一彦教授に深謝いたします。

参考文献

林一彦・西原里実. 2014. 絶滅危惧種ジンリョウユリ (*Lilium japonicum* var. *abeanum* (Honda) Kitamura) の保護地 徳島県東尾. ユリ協会ニュース No.16: 8-11.

JTBヘルスツーリズム研究所. 2007. ヘルスツーリズムの現状と展望調査.

<http://www.jtb.co.jp/healthtourism/news/pdf/20071018.pdf> (確認: 2015年9月25日).

環境省編. 2015. Red Data Book 2014. 8 植物I (維管束植物) 日本の絶滅のおそれのある野生生物. ぎょうせい.

ルイス・チャールズ・A. (吉長成恭監訳). 2014. 植物と人間の絆. 創森社. (Lewis, Charles A. 1996, Green Nature Human Nature: The meaning of Plants in our lives, Board of Trustees of the University of Illinois Press, Chicago).

西原里実. 2014. カレッジボーソレイユ校の国際教育. 日本比較生活文化学会 第21号: 117-128.

ポーラン・マイケル. (西田佐知子訳). 2012. 欲望の植物誌. 八坂書房. (Pollan, Michael. 2001. The Botany of Desire: A Plants Eye View of the World. Random House Trade Paperbacks, New York).

国土緑化推進機構. 2015. 公益社団法人国土緑化推進機構定款. <http://www.green.or.jp/pdf/I-1teikan.pdf> (確認: 2015年9月20日).

Tensie, Whelan. 1991. Nature Tourism: Managing for the Environment. Island Press, Washington DC.

徳島大学地域創世センター. 2015. 平成22年度プロジェクト. 那賀町地域再生塾: ジンリョウユリ座会 <http://www.tokushima-u.ac.jp/cr/project/close/> (確認: 2015年10月16日).

徳島県. 2006. 徳島県条例第18号. 徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例. 徳島県.

徳島新聞. ジンリョウユリが今年も開花、城西高神山分校、生徒が保全活動. 2014年6月8日.

徳島新聞. ジンリョウユリ再び開花、那賀、2013年に野鳥食害で壊滅的被害. 2015年5月20日.

附表1. ジンリョウユリの自生地の保護および保全についてのアンケート

このアンケート調査は、ジンリョウユリの自生地の保護を目的として、学術的な保護策と持続可能な自然観光資源として保全するための基礎調査資料として今後の参考として使用します。

下記の質問にお答え下さい。あてはまるものに○印もしくはご意見をお書き下さい。

アンケート項目

性別：1) 男 2) 女

居住場所：()

年齢：1) 19歳以下 2) 20歳代 3) 30歳代 4) 40歳代 5) 50歳代
6) 60歳代 7) 70歳以上

職業：1) 主婦 2) 会社員 3) 公務員 4) 学生 5) 技術者
6) 研究者 7) 農業 8) 退職者（前職：)

交通手段：1) 自家用車 2) ツアー車 3) 公共交通機関 4) その他 ()

移動時間：1) 1時間以内 2) 2時間以内 3) 3時間以内 4) 車4時間以上

Q1 あなたは花を目的に旅行した事がありますか？

- 1) ある 2) ない 3) 今後してみたい
4) 今後する予定もないが旅先に花があればよいと思う
5) 今後する予定もないし関心もない

Q2 あなたはジンリョウユリがこの土地にしか生育してないことを知っていますか？

- 1) 知っていた 2) 最近知った 3) 今知った 4) 知らなかった

Q3 何回目の来訪ですか？

- 1) はじめて来た 2) 2回目 3) 3～5回目 4) 6～10回目 5) 11回以上

Q4 この場所（保護地）は何処で知りましたか？

- 1) 雑誌 2) 新聞 3) 知り合いから聞いた 4) 掲示板
5) インターネット 6) 観光会社 7) 通りすがり 8) その他

Q5 あなたは花が心理的效果や健康増進効果に役立つと思いますか？

()

Q6 ジンリョウユリを目の前にしてどのように感じますか？

安らぎを感じる、ところが落ち着くなどを参考に下記に書いて下さい。

()

Q7 どれくらいお金を払って鑑賞する価値があると思いますか？

- 1) 500円まで 2) 500円から1,000円まで 3) 1,000円以上 4) 評価できない